

陶芸実践報告

都立橘高等学校主任教諭 河合

1. はじめに

入都以来、武蔵村山高校、三宅高校、橘高校と、3つの学校で教鞭を執ってきた。幸いなことに陶芸の設備あるいは環境に恵まれた学校が多く、授業や部活動等で私自身の専門分野である陶芸に取り組むことができた。しかし、それぞれ工芸科、美術科、産業科と、担当科目が異なり、学科も異なることから、同じ陶芸とはいっても、そのアプローチの方法に差異がある。以下、その内容と、これまでの経験から得られた指導技術や指導上の工夫、留意点等について述べていきたい。

2. 学科によるアプローチ等の相異点

○武蔵村山高校

(普通科全日制。工芸科担当)

- ・造形活動の楽しさを感じさせる
- ・生徒を評価し、自信をつけさせる

○三宅高校 ※島嶼校で避難解除直後

(普通科・併合科全日制。美術科担当)

- ・島の素材を、生徒とともに研究する
- ・島の産業の復興につなげる

○橘高校 ※開校直後

(産業科全日制。産業科担当)

- ・様々な素材のひとつとしての、陶土の特性を理解させる
- ・産業としての陶芸について理解させる

それぞれの学校の校種や環境、生徒の特性に応じて、目標やアプローチを切り替えて取り組んできた。特に三宅高校では地域に貢献することを、橘高校では産業科高校として、美術・工芸としてというよりも、産業としての陶芸というスタンスで取り組んだ。

3. 工芸教育の基本

○用の美、用と美

- ・機能性から導き出される美しさ
- ・機能性と装飾性のバランス

○制作の過程

- ・観察→図案→試作→制作→使用→考察

○素材の特性と加工

- ・基本技能の習得
- ・適正な加工、加工法の理解と創意工夫

工芸教育全般において、上記のような概念が重要となる。陶芸においても同様のことが言える。

4. 陶芸指導の内容

○素材の特性

- ・可塑性 ・吸水性 ・収縮性
- ・流動性 ・焼き締まる… e t c .

○成形技法

- ・玉づくり ・ひもづくり ・板づくり
- ・くり抜きづくり ・型づくり
- ・電動ロクロ成形… e t c .

○制作手順

- ・菊練り→成形→削り→乾燥→素焼き→(下絵付) →施釉→本焼き→(上絵付)

○装飾技法

- ・釉薬 ・下絵付け ・上絵付け
- ・練り込み ・化粧 ・象眼… e t c .

○陶芸の種別

- ・土器 ・陶器 ・炆器 ・磁器
- ・セラミック

上記のような内容を、実習を通じて理解させる。日本国内外の陶芸について、できれば実物を見せ、使用させて鑑賞させたい。また、陶土という素材の特性を理解させることが大切である。釉薬等についても、組成から学ばせることができると良い。

5. 陶芸指導上の留意点

- 素材の特性の把握
- 技法の把握、習得
及び 形体と技法の整合性
- 反復性（制作⇔使用⇔考察）
- 鑑賞
- 材料、作品、設備の管理

指導者として、陶芸に関する特性・技法に精通し、技術を修得する必要がある。作りたい形体に適した技法で制作させることや、制作、使用後に改善点を発見させることが特に重要である。材料等の管理はかなりの負担になるが、授業をスムーズに進めるためにはこれも大切なことである。



6. 電動ロクロ成形指導の工夫

キーワードの紹介

- 菊練り 片手で体重で押す・回転
- 芯出し カギカッコで中心に押さえる
- 土殺し 上に引っ張り上げない
・真下に押さない
- 成形 均等な厚さ、ゆっくり
- 高台削り 手をしっかり固定

※それぞれ、工程を細かく区切って実演、指導

電動ロクロの指導は難易度が高い。自分でできることと指導できることは別の問題。実演が非常に重要。コツを実演と言葉で伝え、生徒の上達を待つことも大切である。



7. まとめ

現任校では12名前後の生徒を対象に指導しており、実習教員や市民講師の補助もある、恵まれた環境である。30~40名規模の生徒への指導に際しては、更なる研究の必要性を感じている。

伝統文化としての陶芸は奥が深く、その指導にあたっては指導者側に専門的な技能と労力が必要であり、しかも高価な設備もある程度必要になる。しかし、生活に直接結びつき、数ある素材の中でも加工の自由度が高い陶土という素材を扱うこともあって、造形教育や鑑賞教育を行うには適した題材であり、生徒にとっても興味・関心を高めやすい魅力的な分野である。

陶芸指導者としての技能を磨くには、夏季休業中の陶芸実技研修への参加をお奨めする。この研修では、技術だけでなく指導方法も学ぶことができる。私自身もできる限り参加するようにしており、制作にあたってのちょっとしたコツを伝える方法、釉薬の調合等の専門的な内容など、これまでに多くの内容を学んだ。

様々な研修の機会を活かし、陶芸指導が可能な教員の増加を望んでやまない。何らかの形で私の経験も一助になれば幸いである。